

学生募集に寄与する大学生生活満足度要因の探索的研究

—学生生活満足度調査を手がかりとして—

中山 正剛 中川 隆 山本 弘 東 真千子
伊藤 昭博 田原 亮二*

An Exploratory Research of Factors which Contribute to Student Recruitment:
Based on Level of Satisfaction with University

Seigo NAKAYAMA Takashi NAKAGAWA Hiroshi YAMAMOTO
Machiko HIGASHI Akihiro ITO Ryoji TAHARA

【Abstract】

The purpose of this study was to investigate factors which contribute to student recruitment based on level of satisfaction with university. The subjects were 239 junior college students who study for teaching certificate of elementary school, kindergarten, childminder. The data were obtained through questionnaires (“satisfaction survey to live a fulfilling student life”). Their questionnaires were consisted of 128 items, and turned 51 items into an object of analysis. The results of factor analysis (using the principal factor analysis with promax rotation), four factors (16 items) about level of satisfaction with university were extracted. The four factors were named as “reinforcement of facilities environment (8 items)”, “teaching by teacher and curriculum (3 items)”, “reinforcement of human relationship (3 items)” and “extracurricular activity (2 items)”. The results of multiple linear regression analysis revealed that “Do you recommend your university for junior fellow and brother and sister?” was significantly related to “teaching by teacher and curriculum”, “reinforcement of human relationship” and “extracurricular activity”. These results indicated that heightening level of satisfaction of teaching by teacher, curriculum, human relationship and extracurricular activity could contribute to student recruitment.

【Key word】

student recruitment, satisfaction survey, factor analysis, multiple linear regression analysis

* 福岡大学

1. 目的

日本の大学を取り巻く環境は、少子化傾向が恒常化しており、18歳人口の減少により大学の学生募集は困難を極めている。そのため、定員割れによる経営悪化や募集停止となった大学も続出しているのが現状である。このような過程を経て、大学への入学志望者数が入学定員数を下回る「全入時代」に突入しており、その中で入学倍率を維持向上させ、学生数を確保することで、入学生の質を保持し、大学経営を安定させることが急務の課題となっている。このことを受けて、入学試験制度が多様化されてきており、一般入試や特別推薦入試、センター試験入試、アドミッションズ・オフィス入試の受験機会が増加しており、私立大学においては同じ学部を5回も6回も受験できるような入試制度になっているところもある。ここで、その大学への受験を左右する決定因の一つとして、在学生・卒業生による口コミが挙げられる。実際に、その大学に在籍した人から薦められることは、一番の広告となりうる。しかし、逆に「あの大学には行かないほうが良い」という声が多いと受験者数の獲得に悪影響を及ぼしてしまう。元来、各大学は「アドミッションポリシー」を基に合否を決めており、入学した学生はそのポリシーに適った「求めている人材」と言えるだろう。その反面、入学後は学生側にも大学に対して期待する環境があるはずである。大学が提供するものと学生が期待するもののギャップこそが口コミを左右する可能性が高い。もちろん、その両者の間には多少の違いが存在するはずだが、その違いを悪い面においてはできる限り少なくすることが学生募集の鍵となっている。そこで、近年、大学における学生生活の満足度をアンケートにより調査し、学生の満足度をさらに向上させるための対策を講じる大学が増えてきている。しかし、満足度を高くするための要因はいくつかの研究により明らかにされているが、直接的に「後輩や弟妹に薦めたい」と思う要因について検討している研究は見当た

らない。

そこで本研究では、口コミにつながる学生生活の要因を明らかにするために、大学における学生生活満足度調査を実施することで、大学生生活満足度因子を作成し、「後輩や弟妹に薦めたい」項目との関連性を調査することを目的とした。

2. 方法

(1) 対象者

対象者は、小学校・幼稚園教諭の免許、保育士の資格取得を目指す学生239名とした。内訳は、1年生110名(男性14名、女性96名)、2年生129名(男性18名、女性111名)であった。なお、調査時期は、平成21年11月から12月の期間で実施され、調査前に回答への同意を得られた者のみを対象とした。また、この調査で入手した個人情報、調査の目的以外に使われることは決してないことを調査票の中に明記した。

(2) 調査項目

本調査は、「充実した楽しい学生生活を送るための満足度調査」と題して、全学部に一斉に調査されたものである。調査項目は、①「基本事項(属性)」18項目、②「大学施設環境について」43項目、③「授業・教育システムについて」7項目、④「事務局について」4項目、⑤「就学・就職支援(キャリア・サポート)について」17項目、⑥「福利厚生について」25項目、⑦「課外活動について」7項目、⑧「学内の人間関係について」4項目、⑨「本学全般のことについて」3項目、の計9分野128項目であった。このうち、対象学科に関係の無い項目や、学生募集に無関係な項目を除いた51項目を分析対象とした。回答は「1. とても不満」、「2. 不満」、「3. ふつう」、「4. 満足」、「5. とても満足」の5項目の中からひとつ選択させた。なお、「43. 高校の時に描いていた本大学のイメージとのギャップ」への回答は、「1. かなり大」、「2. 大」、「3. 小」、「4. かなり小」、「5. なし」となっており、「44. 後輩や弟妹

に本大学を薦めたいと思うか」についての回答は、「1. 思わない」、「2. あまり思わない」、「3. どちらでもない」、「4. 思う」、「5. かなり思う」の5項目から選択させた。

(3) 分析方法

大学生生活満足度因子の抽出方法として主因子法を用い、固有値が1以上の因子に対してプロマックス回転の因子分析を行った。次に、回転後の因子負荷量の絶対値が0.4以上の項目を中心にして因子解釈を行い、因子数については固有値1以上の基準を設けた。また、抽出された因子と「後輩や弟妹に本大学を薦めたいと思うか」(以下、「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」)の項目の関連性を調査するために重回帰分析と重回帰モデルによるパス解析を行った。なお、統計処理にはSPSS statistics 17.0とAmos 17.0を用いた。

3. 結果

(1) 大学生生活満足度調査項目結果

大学生生活における満足度調査の結果について表1に示す。51項目のアンケートの結果の取り扱いについてだが、例えば、「教室環境について」の質問項目が①教室のゆとり、②明るさ、③清潔さ、④設備、⑤空調の5項目から成っているため、この5項目を平均した上で1項目として扱った。この作業を他の質問項目にも施した結果、25項目にまとめられた。

項目の平均値を得点の高い順に見てみると、1位「同級生との関係」(3.61点)、2位「教職員との関係」(3.48点)、3位「学生による研究会等の活動」(3.41点)、4位「事務局の対応について」(3.33点)、5位「科目構成のあり方について」(3.32点)、6位「先輩や後輩との関係」(3.29点)、7位「コンピュータ設備につい

表1. 大学生生活満足度調査項目結果

	質問項目	Mean	SD
2	教室環境について(教室のゆとり・明るさ・清潔さ・設備・空調)	2.90	.59
3	掲示板について(場所・見やすさ)	2.67	.89
4	図書館について(開館時間・職員の対応、人数・雰囲気・蔵書の種類)	3.23	.51
5	コンピュータ設備について(ソフトの使いやすさ・コンピュータの台数・利用時間)	3.28	.63
6	学生が自由に利用できるスペース(学生ホールなど)	3.08	.84
7	喫煙問題について(喫煙マナー・喫煙場所)	2.44	.88
11	トイレについて(清潔さ・明るさ・安全性)	3.01	.67
16	大学の開門時間・閉門時間	3.04	.68
17	大学の治安・安全性について(学内・大学近辺)	2.64	.69
18	科目構成のあり方について(教養科目・専門科目・免許及び資格に関する科目)	3.32	.57
19	教員の講義内容	3.08	.79
20	学生の受講態度について(自分自身の受講態度・自分以外の学生の受講態度)	2.86	.56
21	事務局の対応について(利用時間・職員の対応、人数・雰囲気)	3.33	.63
24	学科における進路支援・指導	3.20	.75
28	食堂について(メニュー・味・価格の妥当性・利用時間・雰囲気)	2.92	.65
33	購買部について(価格の妥当性・利用時間・雰囲気・品揃え)	2.89	.65
35	学校の行事について(体育祭・大学祭)	2.81	.86
36	部活動について(先輩や後輩との関係・施設面・大学からの経済的支援)	3.06	.56
37	学生による研究等の活動	3.41	.78
38	先輩や後輩との関係	3.29	.68
39	同級生との関係	3.61	.83
41	教職員との関係	3.48	.80
42	本大学の雰囲気	3.18	.80
43	高校の時に描いていた本大学のイメージとのギャップ	2.61	1.13
44	後輩や弟妹に本大学を薦めたいと思うか	3.06	1.04

て」(3.28点), 8位「図書館について」(3.23点), 9位「学科における進路支援・指導」(3.20点), 10位「本大学の雰囲気」(3.18点)となっており, 3点(ふつう)を超えていることから, 満足している項目と言える。特に, 友人や先輩後輩, 教員, 事務職員との人間関係に関する項目において高い得点を獲得できていることは特筆すべきことである。また, 満足度の低い項目としては「喫煙問題について」(2.44点), 「高校の時に描いていた本大学のイメージとのギャップ」(2.61点), 「大学の治安・安全性について」(2.64点), 「掲示板について」(2.67点), 「学校の行事について」(2.81点)となっており, 特に喫煙問題についての得点の低さを考えると, 早急な対策が待たれるところである。しかし, 「高校の時に描いていた本大学のイメージとのギャップ」の項目については, ギャップがあると答えた学生のほとんどが「思っていたより悪かった」という意味で答えていると考えられるが, 逆に「思っていたより良かった」という学生もいないとは言いきれず, 多少なりともバイアスが生じてしまっているため, 次回への課題としたい。

さらに, 学生募集のポイントとなる「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」の項目については, 平均点では3.06点となっているが, その詳しい内訳を表2に示す。「薦めたいと思わない」(12.3%), 「薦めたいとあまり思わない」(10.2%)を合わせて22.5%であるのに対して, 「薦めたいとかなり思う」(3.8%), 「薦めたいと思う」(32.6%)を合わせると36.4%となっており, 3人に1人の学生が後輩や弟妹に本大学を薦めたいと思っている結果となった。

表2. 後輩や弟妹に本大学を薦めたいと思うか

	(人)	(%)
思わない	29	12.3
あまり思わない	24	10.2
どちらでもない	97	41.1
思う	77	32.6
かなり思う	9	3.8
合計	236	100

(2) 大学生生活満足度調査の因子分析結果

大学における学生生活満足度調査結果に因子分析を施した結果を表3に示す。因子分析の結果, 大学生生活満足度尺度として4因子(16項目)が抽出された。

第一因子は, 「教室環境について」, 「食堂について」, 「学生が自由に利用できるスペース」など8項目が0.4以上の因子負荷量を示した。これらの項目は, 大学の施設や環境の満足度を意味していることから, 「施設・環境の充実」と名付けた。

第二因子は, 「科目構成のあり方について」, 「学科における進路支援・指導」など3項目から構成されており, 教員の学生への指導についてやカリキュラムに関する内容のため, 「教員の指導及びカリキュラム」と名付けた。

第三因子は, 「同級生との関係」, 「教職員との関係」など3項目から構成されており, 大学生活の中での人間関係の充実度を意味しているため, 「人間関係の充実」と名付けた。

最後に, 第四因子は, 「部活動について」や「学校の行事について」の2項目から構成されており, 課外における活動を意味していることから, 「課外活動」と名付けた。

さらに, 信頼性の検討のため, Cronbachの α 係数を算出したところ, 各下位尺度とも0.65以上の内的整合性が確認された。

(3) 大学生生活満足度因子との重回帰分析結果

大学における学生生活の満足度を構成する各因子が学生の口コミにどのような影響を及ぼしているのかを検討するために, 各下位尺度得点を用い, 「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」の得点を従属変数, 大学生生活満足度因子の4つの下位尺度を独立変数とし, 重回帰分析を行った結果を表4に, パス解析によるその構造モデルを図1に示す。

「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」と大学生生活満足度因子との回帰分析結果をみると, 「教員の指導及びカリキュラム」の因子において1%水準($t=4.015$)で, 「人間関係の充実」と「課外活動」では5%水準($t=2.166$, $t=2.470$)

表3. 大学生生活満足度調査の因子分析結果 (Promax 回転後)

(主因子法: Promax 回転)

因子解釈と構成項目	因子負荷量			
	F1	F2	F3	F4
第1因子: 施設・環境の充実 ($\alpha = .805$)				
11 トイレについて (清潔さ・明るさ・安全性)	.704	-.175	.262	.005
2 教室環境について (教室のゆとり・明るさ・清潔さ・設備・空調)	.661	-.085	.068	-.044
3 掲示板について (場所・見やすさ)	.606	-.141	-.089	.176
5 コンピュータ設備について (ソフトの使いやすさ・コンピュータの台数・利用時間)	.591	-.051	.388	-.162
28 食堂について (メニュー・味・価格の妥当性・利用時間・雰囲気)	.584	.168	-.219	.154
33 購買部について (価格の妥当性・利用時間・雰囲気・品揃え)	.505	.312	-.286	.016
6 学生が自由に利用できるスペース (学生ホールなど)	.496	.160	-.010	-.027
17 大学の治安・安全性について (学内・大学近辺)	.476	.168	-.026	-.081
第2因子: 教員の指導及びカリキュラム ($\alpha = .695$)				
19 教員の講義内容	.012	.616	.180	-.018
18 科目構成のあり方について (教養科目・専門科目・免許及び資格に関する科目)	.040	.576	.238	-.058
24 学科における進路支援・指導	-.036	.549	.004	.037
第3因子: 人間関係の充実 ($\alpha = .741$)				
39 同級生との関係	-.138	.124	.664	.053
41 教職員との関係	-.010	.329	.561	.118
38 先輩や後輩との関係	.089	-.049	.449	.265
第4因子: 課外活動 ($\alpha = .709$)				
36 部活動について (先輩や後輩との関係・施設面・大学からの経済的支援)	-.046	-.060	.177	.792
35 学校の行事について (体育祭・大学祭)	.107	.086	.025	.521
因子間の相関				
F1 施設・環境の充実	-	.445	.453	.297
F2 教員の指導及びカリキュラム		-	.342	.273
F3 人間関係の充実			-	.401
F4 課外活動				-

† 因子負荷が0.40未満の項目や複数の因子に負荷量を示した項目は除外している

で有意な値が認められた。これは、学生が後輩や弟妹に薦めたい気持ちが高めるためには、教員の指導やカリキュラムを充実させ、人間関係や課外活動の満足度を高めることが必要であることを示唆している。

次に、「大学生生活満足度因子」と「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」とのパス解析モデルでは、GFI = .987, AGFI = .872, NFI = .964, CFI = .970, RMSEA = .074と十分な適合度が得られた。「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」への直接効果としては、「教員の指導及びカリキュラム」からのパス係数が.53 ($p < .001$), 「人間関係の充実」が.29 ($p < .05$), 「課外活動」が.25

($p < .01$)と有意であった。間接効果としては、直接効果と比較して弱いものの「教員の指導及びカリキュラム」から「人間関係の充実」を経由して「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」に寄与するプロセスと、「教員の指導及びカリキュラム」から「人間関係の充実」へ、「人間関係の充実」から「課外活動」を経由して寄与するプロセスが認められた。

4. 考察

本研究では、学生募集の核である「学生による口コミ」につながる大学における学生生活の

表4. 大学生生活満足度因子から『後輩や弟妹に薦めたい気持ち』を予測する回帰分析

	満足度構成因子	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率
		β	標準偏差誤差	β		
F 1	施設・環境の充実	.226	.150	.105	1.508	.133
F 2	教員の指導及びカリキュラム	.475	.118	.276	4.015	.000**
F 3	人間関係の充実	.253	.117	.155	2.166	.031*
F 4	課外活動	.229	.093	.165	2.470	.014*

強制投入法 *p<.05 **p<.01

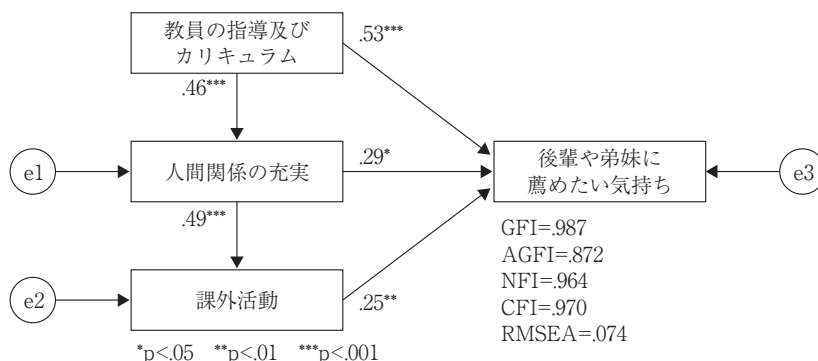


図1. 「大学生生活満足度因子」と「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」とのパス解析モデル

満足度要因を明らかにするために、まず、大学生生活満足度調査を実施し、大学生生活満足度因子を作成した。その構成因子と、「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」の項目との関連性を調査した結果、「教員の指導及びカリキュラム」、「人間関係の充実」、「課外活動」の3因子が学生募集に寄与する要因であることが明らかとなった。

まずは、24項目から成る大学生生活満足度調査項目の結果については、本大学では第1回目の調査であるため、各項目得点の経年比較はできないが、基本的に平均点が3点を上回る項目に関しては「満足している」と捉えると、特に学内における人と人との関係において高い満足感を有している結果となった。中でも「教職員との関係」についてだが、学生が教員との関係に満足している理由として、対象となった学科は40人程度のクラス担任制となっており、出席状況や単位取得状況の把握から、面接指導や求人情報の提供などの就職活動まで担任が担当することになっていることが最大の要因だと推測される。さらに、保育現場で役に立つ幅広い種類の「研究会」という組織が本学科には存在し、

担任以外の教員との関係を密なものにしている。ほとんどの学生が保育所や幼稚園に就職するため、教員の学生指導方針も明確で指導がしやすいことが前提にあり、学科特有の特徴であるといえるだろう。逆に、不満足項目として喫煙問題が挙がってきているが、現在ほとんどの大学において、文部科学省の方針により喫煙場所が限定されてきている。このことによる喫煙者側の不満足と、それを守らない喫煙者のマナー違反を非喫煙者が評価した結果ではないかと考えられる。また、「後輩や弟妹に薦めたい気持ち」の得点については、他との比較ができないが、薦めたいと思う割合が薦めたいと思わない割合を上回る結果となった。しかし、5段階の一番低い得点の「思わない」と答えた学生は、何らかの理由で本学に満足しておらず、入学したことを後悔している層であることを考えると、その割合が12.3%に上っていることは早急に対処すべき事実である。今後の調査では、その具体的な理由を明らかにするための項目を追加したい。

次に、本研究の核である「後輩や弟妹に薦め

たい気持ち」の回答と大学生生活満足度因子との関連性についてだが、まず、「教員の指導及びカリキュラム」、「人間関係の充実」、「課外活動」が後輩や弟妹に本大学を薦めたいという気持ちに直接効果として関連しており、中でも「教員の指導及びカリキュラム」については高い影響力を持っていることが明らかとなった。さらに、「教員の指導及びカリキュラム」は「人間関係の充実」への高い影響力を、「人間関係の充実」は「課外活動」への高い影響力を持っていることから、教員の指導やカリキュラムを充実させ学生に満足してもらうことが第一にあり、そこから学生同士はもちろん、教員や事務職員との「人間関係の充実」につながり、大学での生活が楽しくなった結果、授業以外の「課外活動」にも積極的に参加することで、大学生生活全体の満足度が高まり、後輩や弟妹に本大学を薦めたいと思うプロセスが高い影響力とは言えないが示された。言い換えると、我々教員の働きかけ次第で学生の人間関係を良好なものにすることができると同時に、学生募集にも間接的かつ直接的な効果を有しているということになる。よって、学生の大学内での人間関係を充実させることと、部活動や体育祭、大学祭などの課外活動への参加率を高めるようなアプローチを具体的に考えていくことこそが重要な課題であることが示唆された。

このように、満足度調査結果から学生の現状を細かく把握することは、教育の質の向上に寄与できるだけでなく、今後の学生募集の「氷河期時代」を乗り切るためにも重要となってくるだろう。

【要旨（和訳）】

本研究では、学生募集に寄与する学生生活における要因を明らかにするために、大学における学生生活満足度調査を実施することで、大学生生活満足度構成因子を作成し、「後輩や弟妹に本大学を薦めたいか」の項目との関連性を明らかにすることを目的とし、小学校・幼稚園教諭の免許、保育士の資格取得を目指す学生239名を対象に「充実した楽しい学生生活を送るための満足度調査」が

参考文献

- 1) Ikeda, T., Aoyagi, O. (2009) Testing the causal relationship between children's motor ability and lifestyle : How does life rhythm influence physical activity and motor ability?, Japan Journal of Human Growth and Development Research, No.42 : 11-23.
- 2) 勝矢光昭, 小林みどり, 福田宏, 山浦一保 (2006) 学生満足度調査の結果とその分析, 静岡県立大学経営情報学部紀要「経営と情報」19 (1) : 37-55.
- 3) 栗田真樹, 宇田川拓雄 (2003) 学生による授業評価と満足度測定の問題点, 流通科学大学論集15 : 59-72.
- 4) 南学 (2003) 単位の認定・不認定の予告が授業評価に与える影響, 大学教育学会誌25 : 68-74.
- 5) 南学 (2007) 授業評価における満足と不満足 of 構造, 三重大学教育学部研究紀要58 : 215-222.
- 6) 見館好隆, 永井正洋, 北澤武, 上野淳 (2008) 大学生の学習意欲, 大学生生活の満足度を規定する要因について, 日本教育工学論文誌32 (2) : 189-196.
- 7) 永野仁 (2002) 大学生の就職行動とその成果, 日本労務学会誌4 (1) : 56-63.
- 8) 名見耶厚, 石川慎也, 小野裕次郎, 市野学 (2007) 量的データを用いた関東地区大学の現状分析, 教育情報研究23 (1) : 3-13.
- 9) 白川友紀 (2007) 学生募集と入学者選抜, 筑波フォーラム75 : 39-42
- 10) 高尾義明 (2005) 授業アンケートの定量的分析-授業満足度への影響要因の検討-, 流通科学大学教育高度化推進センター紀要1 : 25-34.
- 11) 田中和廣, 廣津信義, 吉儀宏, 松原広幸 (2008) 2007年度学生生活満足度調査報告, 順天堂大学スポーツ健康科学研究12 : 58-67.
- 12) 山田裕章, 冷川昭子, 峰松修 (1980) 学生生活の研究 : 卒業後から見た大学生生活の満足度, 健康科学2 : 155-161.

実施された。この9分野128項目の調査項目のうち、関連のある51項目を分析対象とし、因子分析を行った結果、4因子(「施設・環境の充実」, 「教員の指導及びカリキュラム」, 「人間関係の充実」, 「課外活動」) 16項目の大学生生活満足度因子が抽出された。また、大学生生活満足度因子が学生の口コミにどのような影響を及ぼしているのかを検討するために、「後輩や弟妹に本大学を薦めたいか」の得点を従属変数、大学生生活満足度4因子を独立変数とし、重回帰分析を行った結果、「教員の指導及びカリキュラム」, 「人間関係の充実」, 「課外活動」の因子において有意な関連性が認められた。これらの結果から、教員の指導やカリキュラムを充実させ、学内における人間関係や課外活動の満足度を高めることが後輩や弟妹に本大学を薦めたいと思う要因となり、引いては学生募集に寄与する要因であることが示唆された。

【キーワード】

学生募集, 満足度調査, 因子分析, 重回帰分析